

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 30 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24720283

研究課題名(和文) 金石文資料を中心とした東アジア儀礼文化研究

研究課題名(英文) Exploring East Asian Ritual Culture Through Inscription Analysis

研究代表者

稲田 奈津子 (INADA, Natsuko)

東京大学・史料編纂所・助教

研究者番号：60376639

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：東アジア世界における儀礼文化の比較歴史学的研究をおこなうために、本研究では金石文資料を主たる分析対象とした。多様な金石文資料を調査・検討したが、特に墓誌・買地券・墓碑や舍利荘嚴に注目し、喪葬儀礼との関連を中心に考察をおこなった。より高度な金石文資料調査の方法論を模索すべく、他の研究者との連携による拓本調査も積極的に実施した。それらの成果は口頭報告や学術論文として発表した。礼制・儀礼文化に関する基礎的研究についても継続しておこない、共著書『大唐元陵儀注新釈』を刊行するとともに、服喪を中心とする考察をおこなった。最終年度には本研究課題の成果も盛り込んだ単著『日本古代の喪葬儀礼と律令制』を刊行した。

研究成果の概要(英文)：In this study, I utilized inscriptions as my main sources and developed a comparative historical analysis of East Asian ritual culture. By focusing on epitaphs, land purchase certificates, tomb inscriptions, and objects adorning Buddha relics, this research closely analyzes various types of inscriptions and examines their relations with mourning and funeral rituals. In order to explore more advanced methodologies for inscription research, I have been actively conducting collaborative projects with other researchers to investigate inscription rubbings. I reported my discoveries from these projects by giving presentations and publishing research articles. During the final year, I published my book, "Nihon kodai no soso girei to ritsuryo sei" (Mourning and Funeral Rituals and the lu-ling statutes in Classical Japan), by incorporating the discoveries from my research project.

研究分野：日本古代史

キーワード：金石文 東アジア 比較歴史学 広開土王碑拓本 墓誌 喪葬儀礼 律令制 服喪

1. 研究開始当初の背景

研究代表者はこれまで、喪葬儀礼を中心とした、東アジア儀礼文化の比較歴史学的研究をおこなってきた。そもそも日本古代の儀礼関係史料としては、平安時代の宮廷儀礼について記した儀式書や貴族の日記がある程度残されているだけで、奈良時代や宮廷外の儀礼に関しては、ほとんど史料が残されていないのが現状である。そのため、従来の国内史料だけを用いる儀礼史研究の手法には限界があった。そこで日唐律令制の比較研究という手法をとり入れ、中国の喪葬規定が如何に古代日本において継受・消化・発展されたのかという視点から、日本古代儀礼を復原する研究をおこなってきた。この日唐律令制比較研究は、中国における新史料「天聖令」の発見を機にさらに進展しつつある。

一方で、中国唐代の「大唐元陵儀注」や朝鮮王朝の『国朝五礼儀』などといった、皇帝・国王の喪葬儀礼について記した史料の分析も、継続的におこなっている。これら史料との比較を通して、日本古代の儀礼を復原することはもちろんであるが、さらに中国礼制の周辺諸国への広がりや、その影響下における地域ごとの文化的特徴を抽出することをめざした。このように、地域や時代を異にする儀礼史料の比較研究は、通時代性・越境性を持つ中国礼制の特質を生かしたものであり、残存史料の限界を越えた分析をおこなう上で、非常に有効な手法であると考えている。

2. 研究の目的

上記の研究を進める中で、特に注目すべき資料として浮上してきたのが、本研究課題の中心となる金石文資料である。金石文資料に関しては、日本古代史分野に限ってみても、すでに多くの研究蓄積がある。しかし従来の研究では、個々のモノに即した分析や、銘文から知られる制作事情、そこから窺える当時の政治・社会状況の検討などに重心が置かれていた。つまり、東アジア全体を見渡した比較歴史学的視点、あるいは儀礼研究の視点は、疎かにされてきたと言わざるを得ない。

本研究課題では金石文資料を主な素材として、東アジアにおける儀礼文化の構造と展開とを、比較歴史学の視点から探ることを目的とした。「儀礼文化の比較研究」という明確な課題のもとに、その解明に有効と想定される種類の金石文資料を対象を限定し、広く東アジア（特に日本・中国・朝鮮半島）の事例を収集・分析することで、新たな金石文資料研究、あるいは比較歴史学研究の手法を模索することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 礼制・儀礼文化に関する基礎的研究... 儀礼文化の比較歴史学的研究という視角の基礎となる礼制・儀礼文化の研究については、継続的に取り組む必要がある。特に新発見史

料「天聖令」をふまえた日唐律令制研究について、これまでの研究を総括する必要がある。

(2) 金石文資料の調査・検討... 墓誌・買地券・墓碑や舍利埋納関連品など、儀礼文化との関係上、また東アジア比較研究の都合上（その残存状況の都合上）、特に有効と思われる種類の金石文について、個別に調査・検討をおこなう。所蔵者の事情や経年破壊などにより、原物調査の難しい場合には、適宜、原物に代わる拓本資料の調査をおこなう。

(3) 金石文資料の出土地・出土遺構の調査... 出土文字資料の検討には、その出土地・出土状況の確認は必須であり、また儀礼の場を理解するためにも不可欠である。そこで国内および韓国・中国において、上記金石文調査とあわせて史跡調査を積極的に実施する。調査地の選定に際しては、現地研究者との連携が可能なものを優先して、高度な調査の実現をめざす。

(4) 以上をふまえた総合的な比較研究... 個別の調査・検討の結果をふまえた、総合的な研究をおこない、これまで文献資料によって組み立ててきた東アジア儀礼文化の理解を、実体を持つ金石文資料によって肉付けし、より豊かな歴史像を描いていく。また金石文資料研究の新たな手法の提起をめざす。

4. 研究成果

(1) 礼制・儀礼文化に関する基礎的研究... 律令制を中心とした喪葬儀礼の研究を継続し、喪葬令の復原に関して〔学会発表〕をおこなった。また火葬に関する文献史料を再考した〔学会発表〕（〔雑誌論文〕）や、正倉院宝物・文書との関係を考察した〔雑誌論文〕、律令制以前の喪葬儀礼に関して先行研究の見直しと新提言をおこなった〔学会発表〕（〔図書〕所収）などを発表した。さらに10年以上にわたって取り組んできた中国唐代皇帝の喪葬儀礼に関する史料の訳注の成果をまとめ、〔図書〕として刊行した。その作業を進める中で、中国の事例との比較から、あらためて日本古代の服喪の制度と実態とを捉え直す必要を感じ、〔雑誌論文〕において先行研究の争点を整理した上で、〔学会発表〕（〔雑誌論文〕）では日本の服喪について、その特質の一側面を明らかにした。関連して、平安時代における中国礼制への理解と律令運用の実態を窺わせる史料を訳注し、〔雑誌論文〕として発表した。あわせて日本中世の貴族層における服喪理解を窺わせる史料について、史料調査をもとづいた翻刻・検討をおこない、〔雑誌論文〕にまとめた。さらに、これらの服喪研究の成果をふまえ、〔学会発表〕をおこなった。

(2) 金石文資料をめぐる調査と研究... 日本古代墓誌の系譜について、新発見の弥勒寺舍利奉安記をはじめとする朝鮮半島の金石文資料との比較から考察を加え、〔学会発表〕（〔雑誌論文〕）をおこなった。また

喪葬儀礼に関わる出土文字資料を用いた検討をおこない、〔学会発表〕で報告した。さらに韓国の武寧王陵出土誌石をめぐる問題について、〔学会発表〕をおこなった。その他、金石文資料による日中比較研究の足がかりとして大谷探検隊関係資料の調査をおこない、〔雑誌論文〕を発表した。さらに、本研究期間には広開土王碑拓本の調査・検討を集中的におこなったが、特に金光図書館所蔵本は研究史上で重要な意味を持つ資料であることが判明したため、調査・撮影を実施した上で、その成果の一部を〔雑誌論文〕としてまとめた。その他、数多くの所蔵機関において拓本調査をおこない、試行錯誤をくりかえしつつ、より精度の高い調査方法の確立に努めた。そうした調査活動の成果の一部を、〔学会発表〕として報告した。

(3) 史資料および史跡の調査... 金石文資料やその出土地の調査としては、国内では奈良国立博物館・龍谷大学図書館・大谷大学博物館・京都大学図書館・崇福寺跡など、韓国ではソウル大学校博物館・東国大学校博物館・国立金海博物館・咸安博物館・国立慶州博物館・国立大邱博物館・慶北大学校博物館・国立中央博物館・弥勒寺址・永川菁堤碑・国立公州博物館・宋山里古墳群など、中国では山東省博物館・吉林省集安市周辺史跡・四川省博物院・大足北山石窟などでおこなった。特に広開土王碑拓本の調査に関連して、お茶の水女子大学・金光図書館・宮崎県総合博物館・多胡碑記念館・学習院大学東洋文化研究所・京都大学人文科学研究所・明治大学図書館・大阪歴史博物館・田山花袋記念文学館・山口県文書館・京都府立福知山高校・首都大学東京・金沢大学・国立歴史民俗博物館における調査を実施した。その他、礼制・儀礼文化に関連して、奈良県立美術館・早稲田大学図書館・東大寺図書館・宮内庁書陵部・尊経閣文庫などでの調査を実施した。

(4) 上記をふまえた総合的な比較研究... 上記(1)(2)で触れたものに加え、本研究課題の成果報告を兼ね、その成果も盛り込んで執筆した〔図書〕を刊行した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計12件)

稲田奈津子、尊経閣文庫所蔵『暇服事』解説、前田育徳会尊経閣文庫編集『尊経閣善本影印集成 55 消息礼事及書礼事他』八木書店、査読無、2015、pp.63-87

稲田奈津子、藤原順子のための天皇喪服議註釈『日本三代実録』貞観十三年九月二十八日～十月七日条、法史学研究会会報18、査読有、2015、pp.82-102

稲田奈津子、東京大学史料編纂所蔵『見忌抄』の紹介と翻刻、田島公編『禁裏・公家文庫研究』第五輯、思文閣出版、査読無、

2015、pp.219-235

稲田奈津子、日本古代の火葬 文献史料から見た、歴史と民俗 31、査読有、2015、pp.41-65

稲田奈津子、聖武天皇の葬列と純金観音像、東京大学史料編纂所編『日本史の森をゆく 史料が語るとっておきの 42 話』中央公論新社、査読無、2014、pp.96-100

稲田奈津子、日本古代の服喪と追善、日本史研究 618、査読有、2014、pp.34-50

稲田奈津子、金光図書館所蔵『初拓好太王碑』と「水谷旧蔵精拓本」、古瀬奈津子編『広開土王碑拓本の新研究』同成社、査読無、2013、pp.121-138

稲田奈津子、日本古代の服喪と喪葬令』『歴史評論』759、査読有、2013、pp.18-31

稲田奈津子、三学士伝と忠臣蔵に象徴される両班と武士の忠義比較」討論文、韓日関係史学会・韓日文化交流基金編『朝鮮時代の韓国と日本』景仁文化社、査読無、2013、pp.80-82

宮川麻紀・稲田奈津子、茂野純一と第一次大谷探検隊ビルマ・清国南方地域調査、東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信 61、査読無、2013、pp.4-14

稲田奈津子、舍利奉安記と日本古代史料、新川登亀男編『『仏教』文明の東方移動 百済弥勒寺西塔の舍利荘厳』汲古書院、査読無、2013、pp.153-187

稲田奈津子、唐日律令賤民制的考察之一 関于賤民間的階層性秩序、中国政法大学法律史学研究院編『日本学者中国法論著選譯』上冊、中国政法大学出版社、査読無、2012、pp.297-311

〔学会発表〕(計11件)

稲田奈津子、儀式史料の比較分析による「后位」研究の可能性、東アジア后位比較史研究会、2015年12月13日、東京大学史料編纂所

稲田奈津子、殯宮の再検討、お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター研究プロジェクト「東アジアにおける比較儀礼史の研究」第5回国際セミナー、2015年7月26日、お茶の水女子大学

INADA, Natsuko、Between Protocol and Practice: The Emergence of Japanese Mortuary Practices、Association for Asian Studies (AAS) Annual Conference 2015、2015年3月26-29日、Chicago Sheraton Hotel & Towers, CHICAGO, IL, US

稲田奈津子、喪葬儀礼と文字資料 随葬衣物疏を中心に、お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター研究プロジェクト「東アジアにおける礼・儀式・支配構造の比較的研究」第4回国際セミナー、2015年3月14日、お茶の水女子大学

稲田奈津子、殯儀礼の再検討、日本史研究会古代史部会例会、2015年3月1日、京都機 関紙会館

なし

稲田奈津子、喪葬儀礼と文字資料 「大唐元陵儀注」を中心に、東アジア儀礼文化研究会シンポジウム「東アジア儀礼文化の実相と展開 「大唐元陵儀注」の可能性」
2014年12月13日、東京大学史料編纂所
稲田奈津子、近年の日本における広開土王碑拓本の調査・研究について、中国社会科学院中国边疆史地研究中心・韓国東北アジア歴史財団「紀念好太王碑建碑1600周年国際学術会議」
2014年10月20-23日、中国吉林省集安市紫都苑賓館
稲田奈津子、日本古代の服喪と追善、日本史研究会大会・古代史部会・関連報告、2013年10月13日、京都産業大学
稲田奈津子、喪葬令の復原をめぐる一論点 吳麗娛氏復原唐喪葬令第6条再考、明治大学大学院ゲスト講師招聘講義、2012年12月7日、明治大学
稲田奈津子、古代の火葬 文献史料から見た墓と火葬、第4回中世葬送墓制研究会「文献史料が語る火葬の風景」
2012年11月24日、奈良県中小企業会館
稲田奈津子、舍利奉安記と日本古代史料、日韓合同シンポジウム「百濟弥勒寺西塔の舍利奉安からみた『仏教』文明の東方移動」
2012年7月14日、早稲田大学

〔図書〕(計2件)

稲田奈津子、吉川弘文館、日本古代の喪葬儀礼と律令制、2015、280
稲田奈津子他、汲古書院、大唐元陵儀注新釈、2013、425

〔その他〕

報道関連情報

新聞報道「古文書や拓本を調べる」(山陽新聞2012年3月17日) 金光図書館所蔵『初拓好太王碑』の再発見に関する記事

アウトリーチ活動情報

稲田奈津子、聖武天皇のお葬式、連続講座「正倉院文書は宝の山 史料で読み解く奈良時代」
2015年8月19日、朝日カルチャーセンター立川教室

稲田奈津子、正倉院宝物と模写・調査 森川杜園『正倉院御物写』の世界、金鷄会公開講座2014年秋季「正倉院文書連続講座・1」
2014年9月27日、金鷄会館(長野県長野市)

6. 研究

組織

(1)研究代表者

稲田 奈津子 (INADA NATSUKO)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号: 60376639

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者